

(様式7)

学位論文審査結果の要旨

氏名	有馬 修二
審査委員	委員長 伊藤 良生 委員 小西 亮介 委員 岸田 悟 委員 山田 茂 委員 _____
論文題目	個人知, 組織知, 及び社会知の知識「連結・統合」構成法と 情報通信分野への応用研究
<p>審査結果の要旨</p> <p>本論文は, 個人知, 組織知, 及び社会知の知識「連結・統合」構成法とそれらの情報通信分野への応用に関する研究成果をまとめたものである。</p> <p>グローバル時代, クラウドコンピューティング時代, 及び本格的な知識創造時代を展望して, 情報通信産業界及びユーザ産業界が抱える「二つの重要課題」を設定した。第一の重要課題は, 情報通信産業界及びユーザ産業界を対象とする「人材の流動問題・結合問題」及び「組織の知識・技術・経験の創造・伝達・継承問題」である。第二の重要課題は, 情報通信産業界を対象とする「情報通信分野トータル・ソリューション企画・開発・提供問題」及び「新産業分野創造をリードする母体産業界への産業進化問題」である。「二つの重要課題」を解決する共通の鍵として, 「ネットワークコラボレーション手法を活用した組織的知識創造活動」に着目し, 「個人ベース」, 「組織内ベース」, 「組織間ベース」, 及び「地域社会間ベース」の「知識の創造・伝達・継承問題」に還元し, 「組織知」に加えて「社会知」及び「個人知」についても総合的に取り扱う, 新規の知識「連結・統合」構成法を提案した。</p> <p>具体的には, 「基本研究」, 「発展研究1, 2, 3」, 及び「情報通信分野への応用研究」に区分して検討を行った。「基本研究」として, 「組織的知識創造活動」の有効性, 基本的な知識「連結・統合」構成法とその「要素技術」を明らかにした。「発展研究1」として, 個人知, 組織知, 及び社会知の連結・統合と共有・分有の「場」を創造することによって「ネットワーク型社会知」を構成する「デジタルビジネス型地域社会ネットワークシステム」を明らかにした。「発展研究2」として, シニア世代が中核となって活躍する「第二ビジネス世界」の事業基盤を支える「ネットワーク型組織知」構成法及び「三層構造オープンイノベーション基盤」を明らかにした。「発展研究3」として, 「個人知」の空間軸と時間軸を総合力で統合する「進化するネットワーク型個人知」構成法を明らかにした。「情報通信分野への応用研究」として, 知の連結・統合の「ネットワーク基本モデル」と情報通信産業界が主導する「ネットワーク型産業知」構成法を明らかにした。</p> <p>これらの成果は, 情報通信技術の研究の特に社会システム分野において新たな知見を与えるものとして評価できる。従って, 本論文は博士(工学)を授与するに値するものと認められる。</p>	